

ピリピ人への手紙

2章の復習

ピリピ人への手紙は、パウロがローマで投獄中に書いたにもかかわらず、「喜び」がテーマであることを見ました。パウロが投獄中であるにもかかわらず喜んでいたように、私たちクリスチャンにも、外側の状況に左右されるこの世の幸せ”happiness”ではなく、どんな状況でも左右されない「イエス・キリストにある喜び」があります。

1章では、私たちがいつでも喜べる理由を4つ、前回の2章では、さらにもう2つを見ました。

2章で学んだ主にある喜び

御子なるイエスが天の御父と完全に一致し、私たちをも一つにしてくださるためにご自身を低くして下さったように、私たちも聖霊に満たされて、聖霊に従って、主と一致してる時に喜びがあり、クリスチャン同士が1章で見た同じ考え方、思い、愛を持って一致し、イエスの模範に従ってへりくだって水平的に一致した時、ソーシャルクラブの集まりではない聖霊の交わり”fellowship”の喜びがあります。（1～8節）

そして、患難、試練、迫害の中でもクリスチャンが強く立って、主にあって歩んでいるのを見ると、やはり聖霊による喜びがあります。（12～18節）

また、テモテとエパフロデトの模範も見て、彼らがパウロ同様に、イエスを一番に見ているので、他のクリスチャンたちも愛して気にかけていることを見ました。

そして、結局のところ、喜び”JOY”とは、何をフォーカスするかの順番でした。

Q. どんな順番でしたか？

Q. その順番が逆になると、どうなりますか？

3章でも、パウロは「喜び」について、さらに続けています。

3章

1～11：神から与えられる義

1節：

ここまでの1章と2章で「イエス・キリストにある喜び」を見てきましたが、この世的には悲しく、辛く、苦しい試練、患難、迫害が、霊的には喜びにつながっていると言う、地上の視点と天上の視点が正反対であることが見えたとします。

だから、「主にあって喜びなさい」であり、「安全のため」です。

Q. なぜ？ サタンは、この世的に悲しく、辛く、苦しい試練、患難、迫害を使って、私たちにどうしたいんですか？

私たちに”いつもあるはず”の「イエス・キリストにある喜び」を奪いたい。イエスから目をそらし、喜びを失わせ、気落ちさせ、疑わせ、絶望させ、神から引き離したい。

（第一ペテロ5：8、9）

だから、私たちがサタンの罠にまんまとハマらないように、私たちの「安全のため」、「”主にあって”喜びなさい」なのです。（ヤコブ4：7）

そして、2節から、この手紙が書かれた当時も、そしていつの時代でも試練の中のクリスチャンに起こる危険について、説明しています。そのような時に、サタンは「疑い」を持たせ、違う教えや考えを持たせようとします。エデンの園でエバを誘惑した時のように。

2節：

ギリシャ語では「犬」には、「kunarion」と「kuon=puppy=ペットの子犬」の2つの言葉があって、ここでは悪い意味の方。（野良犬みたいな）

「犬、悪い働き人、肉体だけの割礼の者」

=当時の自称「イエスをメシアと信じて改宗したユダヤ人」で、本当にはボーンアゲインしておらず、律法主義者で異邦人信者に割礼を受けなければ救われなとか言ったり、高ぶったり、教会の中に異端を持ち込んだり分裂を引き起こした者。宗教的儀式としての割礼を受けたことにプライドを持ち、安心し、律法主義に陥ったてる人など。

特に、試練の中にあるクリスチャンに、ヨブの3人の友人たちがしたように、律法主義を押し付けているような自称クリスチャンのユダヤ人。

=ガラテヤ1：6～7、2：4、3：1～6

今でも、雇われの職業、地位としての自称牧師、自称教師、自称伝道者、自称クリスチャンが教会の中に入っています！カトリックの幼児洗礼の宗教的儀式をしたからクリスチャンだと思って高ぶってる人とか、繁栄の神学”Prosperity Gospel”を語る人とか、あなたが苦しみ会遇到るのは、あなたに信仰が足りないとか、これをしないといけないとか、イエス・キリストにプラスαを付け加える教え（モルモンやエホバの証人などの異端）とか。

3節：対照として、本当にボーンアゲインしたクリスチャンの性質

肉の割礼ではなく、心の割礼＝ローマ2：25～29

外側の形式的な礼拝ではなく、霊”Spirit”とまこと”truth”による内側からの礼拝

=ヨハネ4：23、24

誇るのはイエス・キリスト

人間的な肉に頼らない

4～6節：パウロ

パウロはガマリエルの元で学び、厳しい律法を厳守するパリサイ人で、サンヘドリン会議の議員でもあったエリート中のエリートであったユダヤ人（サウロ＝ベニヤミン族、イスラエルの最初の王サウロもベニヤミン族）。

今のアメリカで言えば、最高裁判事として選ばれる人のように、道徳的に非難されることがない、この世的に最も高潔で正しいと見られる人。＝「人間レベルの外側の律法による義についてなら、非難されるところのない者」

7～9節：

ユダヤ人として神の律法を持ち、最高の教育を受け、人間レベルの道德感では高潔であり、パリサイ人としてその地位を得たことを、パウロは「損”loss”」、「ちりあくた」と思いました。

Q. なぜ？

=主イエス・キリストを知り”ginosko”、イエス・キリストを得”gain”、イエス・キリストにある者と見られ、自分の行いではなく、信仰によって神から与えられる義のため

Q. あなたにとって、「主イエス・キリストを知る”ginosko”、イエス・キリストを得る、イエス・キリストにある”In Christ Jesus”、神から与えられる義」という、それぞれのフレーズの意味をよく考えてください。あなたにとって、それぞれにどんな意味がありますか？

=これ以上にすごいことはない！

Great Exchange=[第二コリント 5：21](#)

キリストを得たならば、神の子どもとして性質を願うならば、すべて持ってる（やがて与えられる）=[ローマ 8：32](#)

[第一コリント 1：29～31](#)=[エレミヤ 9：23、24a](#)

10~11節：

パウロの願いであり、私たちすべてのクリスチャンのゴール

- ・キリストとその復活の力を知る”ginosko”
- ・キリストの苦しみにあずかる、キリストの死と同じ状態になる、死者の復活に達する

=これが、1章29節でも見たこと。”ginosko”

=死なない限り、復活は体験できない。（自分に死ぬ=自分の思い、感情、思考、知恵、力、悟り、すべてに死んで主だけに頼る=聖霊に満たされ、聖霊に働いていただく。）

=[第二コリント 1：8、9](#)、[第一ペテロ 4：1、2](#)

12～16：栄化に向かって聖化の過程を前進する

12節：

主は私たちを初めから完全型を描いて捕らえてくださった。=[1章6節](#)、[ヘブル 10：14](#)

13、14節：

私たちのクリスチャンの生き方

（1）うしろのものを忘れる

- ・過去の失敗に囚われない。後ろを見ていたら前に進めない。過去の自分、過去の自分の環境（e.自分はアルコール依存症の親に育てられて暴力を振るわれたからこうなんだとか）を言い訳にしていたら、いつまで立ってもそこから抜け出せない。前に進めない。

=[第二コリント 5：17](#)、[第一ヨハネ 1：9](#)

- ・過去の栄光に執着しない=すべての罪はプライドから来ている。

=エデンの園での罪=サタンの罪

（2）ひたすらゴールである天におられる主を見上げ、前進し続ける

主イエス・キリストが私たちを召してくださった目的のために人生を生きる
マラソン競技者のように！

=[第一コリント 9：23～27](#)、[第二テモテ 2：3～6](#)、[ヘブル 12：1～3](#)

パウロは後年になってこう言いました。

=第二テモテ4：6～8

15、16節：

私たちもこのように生きたいですね！

パスターチャックがよくこう言っていました。

「私たちの人生はこの世で一度きりです。この世でどう生きたかで永遠が決まります。私たちがこの世で自分や人のためにしたことは何も残りません。ただ、あなたがイエスのためにしたことだけが残ります。イエスがあなたを召されたことに、あなたが忠実であったかどうか、それだけが求められます。だから、この世の一時的な視点でこの世を生きるのではなく、永遠の天を見据え、目標を目指して、後ろを振り向くことなく、前進しましょう。」

17～21：天の故郷と栄化の希望

17節：

パウロやテモテやエパフロデトの模範を2章で見ました。

18～19節：

2節で見たような人たちのこと

=彼らはボーンアゲインしていないので、この世での自分の名誉や栄光を求めているだけ。

20～21節：

Q. 私たちの国籍は？

私たちの「イエス・キリストにある喜び」とは、結局のところ、「イエス・キリスト」そのものの❤️

つまり、イエス・キリストを知り”ginosko”（どれほど素晴らしいお方か、愛なるお方か、偉大なお方か、力あるお方か、正義なるお方か、聖いお方か、哀れみ深く、怒るのに遅く、赦しに富み、恵み深いお方か）、イエス・キリストにある者とみなされ、神から与えられる義を持つことができ、イエス・キリストに似た者へと聖霊によって内側から変えられ、やがて、完全な者として、イエス・キリストの花嫁として天に迎えられ、永遠にイエス・キリストと共に生きることができる、この希望の喜び！

第二コリント5：1～5

コロサイ3：1～4

この世の喜びの何ものも、私たちのイエス・キリストにあるこの喜びとは比べものにならない



🎵 In Christ Alone 🎵 I have decided to follow Jesus 🎵